

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-17449

(43) 公開日 平成7年(1995)1月20日

(51) Int.Cl.⁸

B 6 2 J 39/00

識別記号

庁内整理番号

H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-162531

(22) 出願日 平成5年(1993)6月30日

(71) 出願人 000002082

スズキ株式会社

静岡県浜松市高塚町300番地

(72) 発明者 西川 岳彦

静岡県浜松市高塚町300番地 スズキ株式
会社内

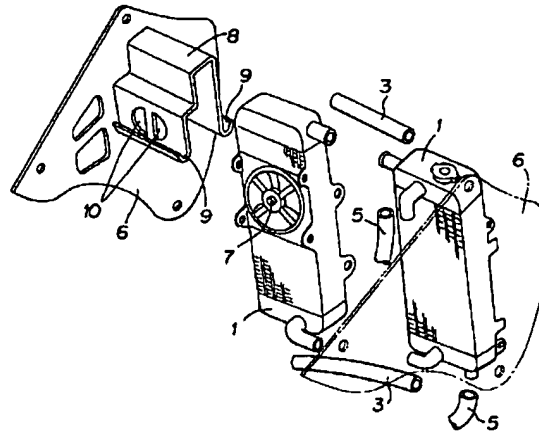
(74) 代理人 弁理士 藤本 博光 (外2名)

(54) 【発明の名称】 自動二輪車のラジエター装置

(57) 【要約】

【目的】 フレームの前部に取付けるラジエターの後面上部に冷却ファンを取付けて強制冷却でき、この冷却ファンを取付けたラジエター部分を防水カバーで覆って泥水の付着を防止し、ラジエターの他の部分が目詰りを起しても、オーバーヒートしないようにできる。

【構成】 フレーム2の前部に前方に向けて取付けたラジエター1の外側をサイドカバー6で覆い、ラジエター1の後面上部に冷却ファン7を取付け、ラジエター1の前側上部から上面及び冷却ファン7の後側を覆う防水カバー8をサイドカバー6内面に取付けて設けたこと。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 フレームの前部に前方に向けて取付けたラジエターの左右両側部をサイドカバーで覆い、ラジエターの後面上部に冷却ファンを取付け、ラジエターの前面上部、上面及び冷却ファンの後側を防水カバーで覆いこの防水カバーをサイドカバーの内面に一体に設けたことを特徴とする自動二輪車のラジエター装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、自動二輪車のラジエター装置に関する。

【0002】

【従来の技術】自動二輪車に水冷エンジンを搭載する場合には、フレームの前部にラジエターを前方に向けた状態に取り付け、当該ラジエターにエンジンの冷却水を循環させ、自動二輪車が走行によって受ける風をラジエターに当てて、冷却水を冷却するようにしている。またラジエターの外側は、サイドカバーに当たることがないようにすると共に、サイドカバーによって走行で受ける風をラジエターに集めるようにしている。

【0003】オフロードに適するようにした自動二輪車では、悪路でモノクロスなどのレースをすることがある。特に雨天のとき前輪で跳上げた泥水や前の車が跳上げた泥水がラジエターにかかり、ラジエターのコアが目詰りを起し、風の通りを悪くして、冷却効果が落ち、オーバーヒート気味になることがあって不都合である。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】かかる点に鑑み、この発明は、フレームの前方に取付けるラジエターの後面上部に冷却ファンを取付けて強制冷却でき、この冷却ファンを取付けたラジエター部分を防水カバーで覆って泥水の付着を防止し、ラジエターの他の部分が目詰まりを起こしても、オーバーヒートしないようにできる自動二輪車のラジエター装置を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的達成のために、本発明自動二輪車のラジエター装置は、フレームの前部に前方に向けて取付けたラジエターの左右両側部をサイドカバーで覆い、ラジエターの後面上部に冷却ファンを取付け、ラジエターの前面上部、上面および冷却ファンの後側を防水カバーで覆いこの防水カバーをサイドカバーの内面に一体に設けるようにした。

【0006】

【作用】ラジエターの前面に泥水などが付着すると目詰りを起して冷却効果が低下する。しかし、冷却ファンが後側に取付けてある部分は、前面後面とも防水カバーで覆われていて、ラジエターのうち防水カバーで覆われている部分への泥水の進行を妨げる。そして、冷却ファンは、強制的に後方に排風して、ラジエターを強制冷却する。また、防水カバーはサイドカバーの内面に一体に設

2

けられているため、防水カバーの保管がサイドカバーと一緒にできるようになる。

【0007】

【実施例】以下、本発明の実施例を図1乃至図3によって説明する。ラジエター1は、縦長のものが左右一対あって、フレーム2の前部に、前方に向けて取付ける。左右のラジエター1は、ホース3で連結し、エンジン4ともホース5で連結して、エンジン冷却水を循環させる。ラジエター1の左右外側には合成樹脂板などで成形したサイドカバー6を取付ける。サイドカバー6は、ラジエターなどが、直接ラジエター1に当たったりするのを防ぐと共に、走行で受ける風をラジエター1に集めるようにしている。

【0008】片側のラジエター1の後面上部には、冷却ファン7を取付ける。冷却ファン7は、電動モーターで駆動するもので、サーモスイッチなどによって操作する。防水カバー8は、ラジエター1の前側上部から上面及び、冷却ファン7の後側まで、少しの間隙を設けて覆う形状にしてあって、サイドカバー6の内面に取付けられていて、ラジエター1に被着するようにしてある。防水カバー8の前側下縁は、後側下縁の高さまでに揃えてあって、ラジエター1の冷却ファン7より下側は覆わない。防水カバー8の前下縁及び後下縁には、外側に断面U字状の桶9を設けて泥水受けにしてある。防水カバー8の冷却ファン7の後側に当る部分には、排風窓10を設けてある。なお、この実施例では、防水カバー8は、一方のサイドカバー6にのみ取り付けただけを示したが左右両方のサイドカバー6、6に取り付けるようにしてもよい。

【0009】防水カバー8で覆ってある冷却ファン7の前側のラジエター1の部分は、防水カバー8によって泥水が付着するのを防ぐことができる。そして、冷却水温が所定温度以上になると、冷却ファンが回転して強制冷却し、ラジエター1の他の部分がどろみずで目詰りを起しても、一定の冷却を保つことができ、オーバーヒートを防止する。防水カバー8は、サイドカバー6の内側面に一体に取付けてあるので、サイドカバー6と共に着脱することができるため組み付けが楽であるのでラジエター1の水洗作業などの整備のときの着脱が簡単にできる。また、自動二輪車組み立て前の保管もサイドカバー6と共にできる。

【0010】

【発明の効果】この発明は上述のように構成したので、ラジエターに泥水が付着して目詰りを起しても、冷却ファンを取付けた部分は、防水カバーによって泥水の付着を防ぎ、冷却ファンによる強制冷却で一定の冷却を保つことができ、オーバーヒートを防ぐことができる。そして、防水カバーは、サイドカバーの内側面に一体に取付けてあるので着脱や保管の便がよい。

【図面の簡単な説明】

3

4

【図1】本発明の実施例を示す分解斜視図である。

【図2】本発明の実施例を示すラジエターを防水カバーで覆った状態の斜視図である。

【図3】本発明の実施例を示す全体側面図である。

【符号の説明】

1 ラジエター

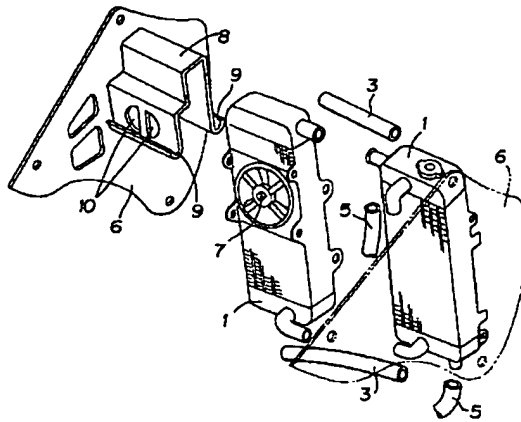
2 フレーム

6 サイドカバー

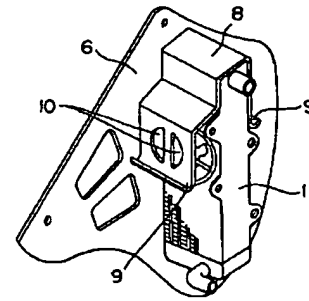
7 冷却ファン

8 防水カバー

【図1】



【図2】



【図3】

